

〈女〉を演じることとその統制

—1920 年代、30 年代広州における都市の女性性と『風俗』の変容—

アンジェリーナ・チン (Angelina Chin)

本報告では、1920 年代から 30 年代広州における二度にわたる風俗の改良運動を中心に分析する。その二度にわたる改良運動によって、中国で初めて道徳的な意味と性的な意味が「風俗」という表現に込められるようになった。1925 年以降の広州の新聞や法律制定の議論において、その時代の地元の政府やエリートは、「風俗改良」をきっかけとして、女性の服装、行為、イメージについて関心をもっていると語られるようになった。一回目の風俗改良運動は 1925 年から始まり、女性に、身体と風俗の束縛から開放されるという意識を身につけさせることを強調していった。従って纏足や「束胸」（胸を締め付ける）、長い髪の毛などの古来からの身体表現は美しさの点から体によくないとされ、「古くて」「よくない」風俗へと変化を遂げたのである。当時の政府や男性のエリートは封建社会とその文化を排して、近代的な都市を作ることを目指していた。その新しい風俗には、衛生、簡潔、健康、男女平等などが重要なテーマとして含まれた。本報告では 1925 年から 1928 年までの「天乳運動」を最初の風俗運動の事例として取り上げる。二十年代末、サービス産業で働いていた女性はさまざまな化粧や、服装を身に着け、客との性的な会話や社交、顧客のまなざしによって消費されるパフォーマンスという次元を、労働に付与した。また都市で活躍した女性達もハイヒールを履き、白粉や頬紅を付けて身体を飾っていた。そして革命家としてのエリートは、近代化がもたらした墮落、「風化」という問題を批判したのである。その近代化のもたらした害悪に対抗するべく、二回目の風俗運動は 1929 年から 1936 年まで行われた。その中で、一番注目すべき政策は 1935 年の服装改良運動である。服装改良運動は、流行を追っていた女性の服装とそのイメージに対して、厳しい基準を設け、監視を加え、法律を訂正しようとする動きがみられた。風俗の改良運動は、「近代女性のイメージ」、開放された近代化のシンボル、性的に誘惑する悪女、社会秩序を脅かすものなど、さまざまな再定義をめぐる議論を生み出したのである。